

渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会 設 立 趣 旨

渡良瀬遊水地は、本州最大級のヨシやオギを主体とする氾濫源の湿性草原を有した多様な生物の生息空間であるとともに、利根川水系における洪水調節・生活用水の確保などの重要な役割を担っています。しかし、近年は乾燥化や環境の単純化、外来種の増加等による湿地環境の悪化が環境保全上の大きな課題となっています。

このため、平成14年6月に河川管理者をはじめ各分野の学識経験者、関係市町の代表、地域住民の代表からなる「渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会」が設置され、平成22年3月にその検討結果を「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」として取りまとめています。

今後、基本計画に基づき、渡良瀬遊水地の湿地を再生するため、掘削を実施しますが、良好な自然再生を着実に進めるため、順応的管理による段階施工で実施することとします。この順応的管理を行うためには、しっかりしたモニタリングを行い、自然再生に適した掘削の手法を常に追い求める必要があります。このため、適切なモニタリング計画とするための議論の場として、渡良瀬遊水地の環境に精通した地元の有識者による「渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会」を設立するものです。